

# CNA レポート・ジャパン

Conferencing News & Analysis, Report on Japan market - CNAReportJapan

創刊：1999年12月  
発行日：毎月15日・月末  
PDFによる発行

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム市場専門トレンドワッチ

Vol. 16 No.19 2014年10月15日号

ホームページ：<http://cnar.jp> お問い合わせ：[cnar@cnar.jp](mailto:cnar@cnar.jp)

## 製品・サービス動向-国内

### ■VTV ジャパン、次世代メディアプラットフォーム「Pexip Infinity」の販売を10月中旬より開始

VTV ジャパン株式会社(東京都千代田区)は、3月31日に正規代理店契約を締結したPexip AS社(ノルウェー)の次世代メディアプラットフォーム「Pexip Infinity(ペクシプインフィニティ)」の販売を10月中旬より開始する。(取材:10月2日)



Pexip 社(写真左:企業ロゴ、VTV ジャパン提供)は、ノルウェーオスロに本社を置き、ビデオコミュニケーション製品を開発・販売する企業。タンバークやシスコに

て20年以上のキャリアを培ったメンバーが中心となって2012年4月に設立した。会社設立から15か月で自社開発製品Pexip Infinityを完成させ、2013年9月の発売開始以来、世界各国の大手企業や大学などに20,000以上のライセンスを販売している。

「タンバーク時代の旧知からPexipを紹介され、Pexip Infinityの発想や技術がユニークであると判断し、当社として正規代理店契約を締結した。日本で使える製品にするためにGUIの日本語化や販売体制構築などの準備を整え、この10月から日本の企業向けに販売開始することになった。」(VTV ジャパン)

Pexip Infinityは、最新の技術とノウハウでソフトウェアと仮想化(VMwareなど)を組み合わせることで、テレビ会議を電話やe-mail並みの手軽なコミュニケーション手段に変えることを目指した製品だ。拡張性にすぐれ分散環境に対応しているため何千といった大規模展開にも柔軟に対応している。「米国の某大手企業では8,000ライセンスでPexip

Infinityを導入している。」(VTV ジャパン)

Pexip Infinityでは、H.323/SIP テレビ会議システムのほか、「Microsoft Lync」、「Cisco Jabber」、WebRTCなどにも対応しており、テレビ会議専用端末やWindows PC、MacOS、スマートフォン/タブレットなど接続デバイスを選ばない。もちろん、H.323/SIPテレビ会議専用端末とWebRTCによる、映像と音声、データ共有を交えた会議も簡単に行えるようになっている。加えて、最近企業への導入が進むOffice365のLync機能と連携した使い方も可能という。



MacでのPexip Infinity テレビ会議 (VTV ジャパン)



Lync 2013によるPexip Infinity テレビ会議 (VTV ジャパン)

また、Pexip Infinity の API を通して、さまざまな業務システムやグループウェア、ビデオポータルなどの連携が容易に行えるようになっている。たとえば、グループウェアの中に Pexip Infinity の機能を組み込み、ひとつのユーザインターフェイスの中でグループウェアもビデオ会議も実現することが可能だ。

導入に際しては、ユーザの利用の仕方に応じて、「ポートライセンス」方式もしくは「ユーザライセンス」方式のいずれかを選択する。最小導入ライセンス数が設定されているが、1ポート/ライセンスから購入が可能になっている。オープン価格となっている。

「単なるソフトウェア MCU ではなく、さまざまな業務システムとの連携にも柔軟に対応しているところが“次世代メディアプラットフォーム”と言われる所以でもある。ユーザがどう使うかによって利用の可能性は広がる。当社はこれまでの 15 年以上のマルチベンダーとしての実績から企業ユーザのニーズに合わせてシステム構築のお手伝いをしたいと考えている。」(VTV ジャパン)

## ■プリントン、社内外のシームレスなビデオ会議接続環境を提供するセッションボーダーコントローラー「EdgeProtect シリーズ」を発売

株式会社プリントン(東京都千代田区)は、Edgewater Networks 社(アメリカ カリフォルニア州)と国内での販売代理店契約を締結し、ビデオおよび音声会議用セッションボーダーコントローラー(SBC)製品「EdgeProtect シリーズ」の販売を9月1日より開始した。(取材:10月7日)

Edgewater Networks 社は、2002年設立。サンタクララに本社を置く。IP ネットワークでのセキュアなビデオ会議や VoIP 通話を実現する、エンタープライズ向けの各種セッションボーダーコントローラーを提供している。また、ポリコム社のテクノロジーパートナーとしても活動している。

EdgeProtect シリーズは、企業ネットワークでのファイアウォールなどセキュリティを確保しながら、社内・社外に分散するビデオ会議端末のシームレスな接続環境を提供する装置

である。

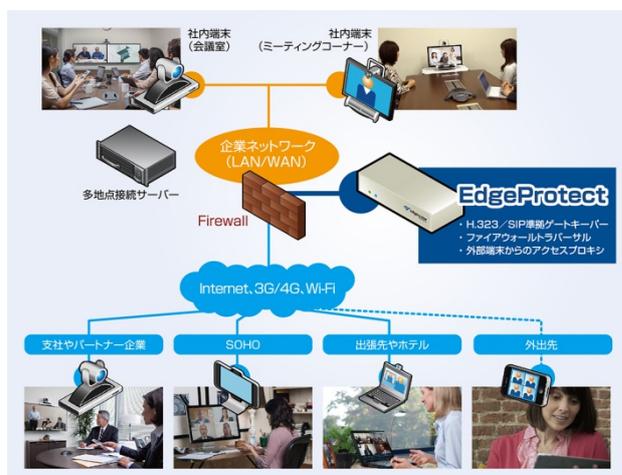
EdgeProtect シリーズの導入により、インターネットや 3G/4G、モバイル WiFi などを利用する社外からのビデオ会議端末と社内のビデオ会議端末とのセキュアかつ簡単な接続を実現する。



EdgeProtect 4550 シリーズ (プリントン)



EdgeProtect 7000 シリーズ (プリントン)



EdgeProtect 接続構成イメージ (プリントン)

同時 5 セッション対応の「EdgeProtect 4550」と、同時 5～200 セッション対応の「EdgeProtect 7000」の 2 シリーズの製品を提供する。

EdgeProtect シリーズは 1 サーバで、H.323/SIP 通信をサポートし、H.323 ゲートキーパ、H.460 NAT/ファイアウォールトラバーサル、外部端末に対するプロキシサーバ、端末レジストレーションなどの機能を搭載しており、内線番号運用やモバイル環境構築において複雑化するサーバ構成をシンプルにし、低コストで簡単に構築できるようになっている。

加えて、ポリコム社のソフトウェアベースのビデオ会議端末「RealPresence Desktop」および「RealPresence Mobile」のレジストレーション機能をサポート。RealPresence Mobile については EdgeProtect シリーズへのレジストレーションにより、プロフェッショナルモードでの動作が可能。

プリンストンでは、外部からのセキュアな会議接続や内線番号によるシンプルな会議運用を実現したいと考えているユーザや、ポリコムのモバイル端末用アプリケーションを利用してビデオ会議を行いたいと考えているユーザを想定しているという。

「EdgeProtect は小規模なビデオ会議ユーザにも最適なシステムと考えている。この製品で、社外とセキュアに接続したり、モバイル端末でのビデオ会議環境を導入するための敷居が下がると期待している。」(プリンストン)

ユーザが社内外のネットワークから EdgeProtect へレジストレーション行うのは簡単だ EdgeProtect の IP アドレスと ID、パスワードを端末の画面で入力することで登録は完了する。あとは内線番号で相手を呼ぶだけでビデオ会議が行える。取材時のデモでは、モバイル WiFi につながったモバイル端末 (RealPresence Mobile) から社内ネットワークにあるビデオ会議端末 (RealPresence Group) へ内線番号で接続し、モバイル端末側からの資料共有などを行った。

価格はオープンプライス。EdgeProtect 4550 は、「5 ビデオセッションモデル」(ゲートキーパのみ)と「5 ビデオセッション & 端末プロビジョニングサポートモデル」の 2 モデルを提供。一方、EdgeProtect 7000 は 5~200 ビデオセッションモデル (いずれも端末プロビジョニング対応) を提供している。

プリンストンとしては、今回発売の EdgeProtect シリーズの他に、ポリコム社および Vidyo 社のビデオ会議システムも提供しており、ユーザのシステム構築の規模やニーズに応じてこれらの中から最適な製品を提案していく計画だ。

## ■アバー・インフォメーション、多地点 HD テレビ会議システム「EVC300」と「EVC900」専用のモバイルアプリ・ソフトウェア「EZMeetup」を発表

アバー・インフォメーション株式会社(東京都千代田区)は、多地点 HD テレビ会議システム「EVC300」と「EVC900」専用のモバイルアプリ・ソフトウェア「EZMeetup」を発表。発売は10月10日から。(10月7日)

モバイルアプリ・ソフトウェア EZMeetup により、ユーザは従来の会議室だけでなく、デスクトップ、タブレットPC、スマートフォンまで幅広い環境でテレビ会議を活用することができる。たとえば、東京-大阪間のテレビ会議に、出張先・訪問先から会議・打ち合わせに参加したり、テレビ会議システムを所有していない取引先とモバイル端末やPCにより会議や打ち合わせを行うことも可能だ。

EZMeetup の特徴は以下の通り。

- (1) Windows, iOS, Android のモバイルデバイスにより、どこからでも EVC300・EVC900 の多地点会議に参加できる。
- (2) EVC300 には 3 ユーザまで、EVC900 には 9 ユーザまでの EZMeetup が多地点テレビ会議に参加可能。また、従来の Aver テレビ会議システムを含めた H.323 端末との混在接続も可能となっている。

【接続構成例】



4拠点内蔵MCUを搭載したEVC300の接続構成例  
(アバー・インフォメーション)



10拠点内蔵MCUを搭載したEVC900の接続構成例  
(アバー・インフォメーション)

(3) VGA (640x480) または CIF (352x288) の解像度に対応。モバイルながらテレビ会議システムと変わらない画質で会議参加ができる。

(4) 利用可能な回線帯域に合わせて帯域設定に対応。Windows バージョンは、64/128/256/384/512/768/1024kbps の帯域設定が可能で、また、iOS バージョンや Android バージョンについては、64/128/256/512kbps の帯域に対応している。

(5) 簡単な画面操作。iOS や Android 端末では、ワンタッチで容易にテレビ会議の発信が行え、全ての機能は画面の2つの階層の中で簡単にアクセスできる。

(6) コンテンツ共有受信を標準装備。テレビ会議システムに接続した PC や書画カメラからのコンテンツ共有画像をデュアルストリームでカメラ画像と共に受信できる。この機能は、2014 年リリース予定の次バージョンにより対応する。

今回の EZMeetup リリースにより提供するソフトウェアは、Windows 用ソフトウェア「EZMeetup PC バージョン」(オープンプライス)、iOS 用モバイルアプリ「EZMeetup iOS バージョン」(フリー)、Android 用モバイルアプリ「EZMeetup Android バージョン」(フリー)。

## ■ゼンハイザージャパン、ビジネス向けポータブルスピーカーフォンを発売

ゼンハイザージャパン株式会社(東京都港区)は、ビジネスプロフェッショナル向けのポータブルスピーカーフォン「SPシリーズ」を発売する。(10月1日)

SPシリーズは、ユニファイドコミュニケーション環境においてPCソフトフォンやWeb会議などを利用するビジネスユーザーへ優れた音質を提供するプレミアムポータブルスピーカーフォン。

PC向けにUSB接続する「SP10シリーズ」、また、USBだけでなくタブレットやスマートフォンの3.5mm 4極オーディオ端子にも接続可能でバッテリーを内蔵した「SP20シリーズ」の2シリーズ4モデルがラインナップされている。「Microsoft Lync」に対応したモデルもある。

特長としては以下の通り。(1)クリアな通話を実現する高

音質設計。(2)コンパクトで持ち運びに便利なデザイン。移動先からの会議通話に最適。(3)マイクミュート機能を装備。(4)スマートフォンやタブレットに保存された音楽を高音質に再生することができる。SP20シリーズの3.5mm端子接続時にミュートボタン長押しにより音楽再生の音質に特化したMusicModeを起動することで再生が可能。(5)通話用と音楽再生用MusicModeの両方に対応したダイナミックイコライザー搭載。(6)全二重通信、エコーキャンセルに対応。

価格は、「SP10」と「SP10ML」が、22,800円(税別)、「SP20」と「SP20ML」が25,800円(税別)。本体寸法(W x H x D)は、110 x 110 x 30 mm。問い合わせ先は、株式会社ジェイドコーポレーション(東京都新宿区)。

## ■大日本印刷、日本ユニシス、パイオニア VC の3社、災害危機管理ソリューション「緊急対応システム」を提供開始

大日本印刷株式会社(東京都新宿区)、日本ユニシス株式会社(東京都江東区)、パイオニア VC 株式会社(東京都目黒区)は、災害危機管理ソリューション分野で協業し、この度、各社のソリューションを連携した「緊急対応システム」の提供を10月15日から開始する。(10月14日)



### 緊急対応システムの全体図 (大日本印刷、日本ユニシス、パイオニア VC)

緊急対応システムは、(1)デジタルサイネージ用コンテンツ配信サービス「SmartSinage」(大日本印刷)、(2)クラウド型危機管理情報共有システム「SAVEaid/セーブエイド」(日

本ユニシス)、(3)ビジュアルコラボレーション「xSync(バイシンク) Prime Collaboration」とマルチタッチテーブル「ディスカッションテーブル」(パイオニア VC)から構成される。

このシステムは、情報を迅速かつ正確に連携・伝達し、速やかに適切な判断を下したりするといった、災害緊急時の情報サイクルの円滑化を行うことを目的とした製品である。もちろん、災害時だけの利用ではなく、会議での利用やデジタルサイネージとしての利用など、平常時での活用も可能だ。

参考価格(税抜):初期費用は、4,000 千円～(PC 内蔵のディスカッションテーブル 1 台付属)。月額費用は 300 千円～。また、拠点にデジタルサイネージを導入する場合は、1 拠点あたり、初期費用は 900 千円～(PC1 台、筐体付き大型ディスプレイ 1 台付属)。月額利用料は 12 千円～。なお、価格は 10 月 15 日現在のもので内容は予告なく変更となる場合がある。

今後、3 社は、災害危機管理ソリューション分野で、シナジーを活かして地方公共団体への支援および地域住民サービス向上、公共施設、商業施設、プラント等に向けて販売を行う。今後、5 年間に 30 億円の売上を見込む。

## 製品・サービス動向-海外

### ■Lindenbaum 社、同社が提供する遠隔会議ソリューション向けの「Microsoft Lync Add-in」を発表

Lindenbaum GmbH 社(ドイツ)は、同社が提供する遠隔会議ソリューション向けの「Microsoft Lync Add-in」を発表した。(10 月 7 日)

マイクロソフト社製品との連携としては、これまで「Microsoft Outlook calendar」向けのアドインを提供してきたが、今回、Lync(Lync 2010、Lync 2013)にも対応することになる。このアドインにより、Lync ユーザは、Lindenbaum 社のソリューションを通して、非 Lync ユーザとアドホックな音声会議、Web 会議を行うことが可能になる。なお、Outlook アドインでは、Outlook を使ってユーザが会議の予約を簡単に行

えるようになっている。

\*関連:定期レポート 2014 年 4 月 15 日号「Lindenbaum 社アジア進出を目指す」

## ビジネス動向-海外

### ■教育ソリューションの Blackboard 社、WebRTC の Requestec 社を買収

教育向けソリューションを提供する Blackboard 社(米、ワシントン D.C.)は、WebRTC ベンダーの Requestec 社(イギリス、ロンドン)の買収を発表。(9 月 25 日)

Blackboard 社の Requestec 社の買収は、学生や教師などへ究極の価値を提供するというプロダクト戦略の一環で実施した。買収金額は公表していない。

Requestec 社が提供する WebRTC によって、IP ビデオ会議やスクリーン共有がブラウザで行える。すでに WebRTC の技術は、Blackboard 製品ポートフォリオに組み込まれており、今後、同期型の学習体験(synchronous learning experience)に大きなインパクトを与えるものと同社では期待している。また、一方で Requestec 社によると、今回の買収は、WebRTC 技術の有効性を改めて示すものと歓迎している。

### ■AT&T と Blue Jeans Network 社、AT&T の法人顧客向けのビデオコラボレーションサービスで提携、障がい者のバリアフリーも実現

米通信大手 AT&T 社と Blue Jeans Network 社(アメリカ、カリフォルニア州)は、AT&T の法人顧客向けのビデオコラボレーションサービスで提携したと発表。(10 月 7 日)

この提携により、Blue Jeans のクラウドビデオ会議サービスは、AT&T のモビリティソリューションの一角を占めることになり、「AT&T Video Meetings with Blue Jeans」を利用する法人ユーザは、デスクトップからモバイルデバイス、会議室用までビデオ会議を簡単に行えるようになるという。

両社が提供するサービスは、障がい者の IT へのバリアフリーを規定した、「Web Content Accessibility Guideline 2.0」米国国内法「21<sup>st</sup> Century Communications & Video

Accessibility Act」にも準拠しているという。障がい者も含めてだれもが簡単にサービスを受けられるとしている。

## 導入・利用動向-国内

### ■大東銀行、本部および全営業店計 61 か所にテレビ会議システムを導入

株式会社大東銀行(福島県郡山市)は、意思伝達の迅速化と業務効率化等を図るため、10月1日より、テレビ会議システムを導入したと発表。(10月1日)

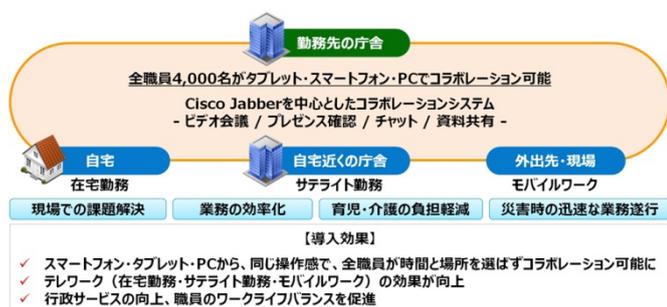
導入したテレビ会議システムは、シスコ社の「Cisco TelePresence Video」。本部および全営業店(浪江・富岡支店は除く)の計 61 か所に設置。

意思決定および意思伝達の迅速化および業務の効率化、会議・研修会への参加に係る移動時間の削減、交通費等の経費削減、災害等発生時における連絡手段の確保などが期待されるとしている。

株式会社大東銀行 <http://www.daitobank.co.jp/>

### ■ネットワンシステムズ、佐賀県庁の全職員約 4,000名のワークスタイル変革を加速するコラボレーションシステムを構築

ネットワンシステムズ株式会社(東京都千代田区)は、佐賀県庁の全職員約 4,000名のワークスタイル変革を加速するコラボレーションシステムを構築した。システムは10月から稼働している。(10月1日)



#### 概要図(ネットワンシステムズ)

佐賀県庁は、全職員が庁内・庁外どこにいても同じ操作感でコラボレーション可能なシステムを導入することにした。

そこで採用したのが「Cisco Jabber」を中心としたコラボレーションシステム。各職員は、タブレット、スマートフォン、PCを状況に応じて使い分け、庁内・庁外どこからでも、ビデオ会議、プレゼンス、チャット、資料共有を可能にする。これにより、行政サービスの向上と業務の効率化、職員のワークライフバランスを加速するとしている。

佐賀県庁は、10月から本システムを活用し、従来の半数から全職員へと対象を拡張してテレワーク(在宅勤務・サテライト勤務・モバイルワーク)を実施する。すでにテレワークの効果として、「現場での課題解決」「業務の効率化」「育児・介護の負担軽減」「災害時の迅速な業務遂行」などが生まれており、コラボレーションシステムによる効果の更なる充実を見込んでいるとしている。

ネットワンシステムズは、自席や会議室、外出先、在宅勤務など多様なシチュエーションでの利用方法と効果をデモ。また同社がCisco Jabberや仮想デスクトップ、スマートフォン、タブレットを活用している経験から、利用者視点と管理者視点の双方から有効な使い方や効果を具体的に提示し、総合評価方式による競争入札により佐賀県庁での導入が決定したという。なお、シスコ社認定の「Cisco Master Collaboration Specialization」を取得していることも高く評価されたという。

佐賀県庁 <http://www.pref.saga.lg.jp/web/>

### ■ネットワンシステムズ、富士重工業の新社オフィスでのビデオ会議システムを構築

ネットワンシステムズ株式会社(東京都千代田区)は、富士重工業株式会社(東京都渋谷区)の新社オフィス(今年8月移転)のビデオ会議システムを構築した。(10月10日)

富士重工業は、スバルブランドの自動車・航空機・産業機器の3つの事業を持つグローバルな輸送機器メーカー。国内外に多くの拠点・関係会社・取引先があり、移動時間や出張コスト削減のためビデオ会議システムを導入していた。

しかし、端末数が足りない、画質・音質が粗い、操作が複雑などの課題があり、今回新社オフィス移転にあわせ、ビデオ会議端末の数を旧社の5倍の約50台と大幅に増加

させた。



## 概要図（ネットワークシステムズ）

全ての会議室でビデオ会議を可能にするとともに、持ち運び可能な端末も導入することで場所を選ばないビデオ会議も可能にしている。また、従来導入していたビデオ会議端末と比べ、画質・音質と操作性を向上させている。

これによって、富士重工業は、グローバルにわたる多くの拠点・関係会社・取引先と、高品質なフェイス to フェイスの会議を数多く、即座に開催可能となり、業務効率の向上と意思決定の迅速化を実現した。

ネットワークシステムズは、今回の提案に際して、同社のデモ施設「ソリューション・ブリーフィング・センター」で複数メーカーのビデオ会議端末の比較を行ったり、「Innovative Office 見学エリア」で同社社員が実践している新しいワークスタイルの案内も行った。効果を具体的に提示したことが富士重工業から高く評価され、採用されたという。

富士重工業株式会社 <https://www.fhi.co.jp/>

## CNA レポート・ジャパン PR

### ■株式会社日立ハイテクノロジーズ

<http://cnar.jp/Hitachi-HighTech3.htm>

## セミナー・展示会情報

### <国内>

#### ■Web 会議合同セミナー2014

日時：10月15日(水)～17日(金)10:00～18:00

会場：東京ビッグサイト(東4～6ホール)

ITpro EXPO 2014 ヤマハブース:コマ番号 15-16

主催：ヤマハ、大手 Web 会議ベンダー8社

詳細・申込：

[http://jp.yamaha.com/news\\_events/communication/20141001/](http://jp.yamaha.com/news_events/communication/20141001/)

\*エイネット株式会社、エヌ・ティ・ティアイティ株式会社、キヤノンソフトウェア株式会社、シスコシステムズ合同会社、ジャパンメディアシステム株式会社、VQS マーケティング株式会社、パナソニックソリューションテクノロジー株式会社、Vidyo Japan 株式会社 (あいうえお順)

#### ■Web 会議システム「LiveOn」セミナー「事例から学ぶ、業種別ビジュアルコミュニケーション活用術」

～Web 会議だけでは無い！遠隔地の場所や人を繋いでコミュニケーション～

日時：10月23日(木)15:30～17:30

会場：ジャパンメディアシステム本社(東京都千代田区)

主催：ジャパンメディアシステム株式会社 本社セミナールーム

詳細・申込：<http://www.liveon.ne.jp/seminar/tokyo2014001.html>

#### ■Google Chromebox for meetings (WEB 会議システム)、Drive for Work (容量無制限のグループウェア) と iPad 活用事例のご紹介

日時：10月24日(金)14:00～16:30(受付開始:13:30)

会場：グーグル株式会社 東京オフィス(東京都港区)

共催：グーグル株式会社 / 株式会社電算システム / 株式会社NTTドコモ

詳細・申込：

[http://www.dsk-cloud.com/seminar/gotouchi\\_tokyo20141024](http://www.dsk-cloud.com/seminar/gotouchi_tokyo20141024)

#### ■Polycom Day 東京：コミュニケーションの世界はさらに広がります。

日時：10月24日(金)15:30～16:30(受付:15:15)

会場：ポリコムジャパン オフィス(東京都新宿区)

主催：ポリコムジャパン株式会社

詳細・申込：<http://www.polycom.co.jp/company/events.html>

## ■ワークスタイルの変革セミナー2014～オフィス環境、業務ルール、人事制度、ITインフラの第一人者が語る成功の秘訣～

日時:10月24日(金)13:30～17:30(受付:13:00)  
 会場:シスコシステムズ合同会社セミナールーム(東京都港区)  
 主催:ディーアイエスソリューション株式会社  
 共催:シスコシステムズ合同会社/株式会社文祥堂  
 詳細・申込:[http://cloud.dsol.co.jp/seminar/semi20141024\\_314.php](http://cloud.dsol.co.jp/seminar/semi20141024_314.php)

## ■高音質で遅延の少ないWeb会議「IC3」活用セミナー

日時:10月28日(火)15:30～17:30(受付:15:00)  
 会場:キャノンソフトウェア本社(東京都品川区)  
 主催:キャノンソフトウェア株式会社  
 詳細・申込:  
<https://reg.canon-soft.co.jp/public/seminar/view/249>

## ■Microsoft Lync 2013 ハンズオンセミナー

日時:10月29日(水)13:30～17:00(受付:13:15)  
 11月7日(金)13:30～17:00(受付:13:15)  
 会場:日本ビジネスシステムズ セミナールーム(東京都港区)  
 東京都港区虎ノ門1-23-1 虎ノ門ヒルズ森タワー16F  
 主催:日本ビジネスシステムズ株式会社  
 詳細・申込:<http://www.jbs.co.jp/event/list/2014/1107>

国内その他:<http://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他:<http://cnar.jp/cna/event-r.html>

\* イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

## アーカイブ電子ブック版

>2003年-2013年 [http://www.catalog-square.co.jp/cna\\_report/](http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/)

>2014年 [http://www.catalog-square.co.jp/cna\\_ebook/](http://www.catalog-square.co.jp/cna_ebook/)

電子ブック制作:カタログスクウェア株式会社  
<http://www.catalog-square.co.jp>

## 情報発信について

CNAレポート・ジャパン(橋本啓介)では、国内外における、「製品・サービス」「ビジネス」「ユーザ導入・利用」「決算発表」「人事発表」「市場統計データ」「セミナー・展示会」といった観点から、インターネットに公開されている、各社のプレスリリースやお知らせ、ニュースメディアサイト、ポータルサイト、ブログ、掲示板、youtube、メルマガ、Linkedin、Twitter、Facebook、google+などに掲載されている遠隔会議関連の情報を日々収集しております。

下記配信では、市場トレンドを見ていく上で参考になるとと思われる情報を配信しています。皆様ご自身の情報収集と合わせてご利用いただければと存じます。

**定期レポート(15日・月末発行):**各社からのプレスリリース、CNAレポート・ジャパンの取材による記事

**Dtc-forum メーリングリスト、フェイスブック&Twitter(それぞれほぼ毎日配信):**定期レポートであつまっている各社からのプレスリリースや取材に加え、遠隔会議システムに関する情報全般。

詳細は、<http://cnar.jp> 「情報配信について」をご覧ください。

## 編集後記

今号もお読みいただきありがとうございました。

今回掲載に間に合わなかった発表がありますが、次号以降に掲載できればと思っております。

---

今週は、10月15日(水)から17日(金)まで東京ビックサイトで、「ITpro EXPO 2014」と「危機管理産業展2014」が開催されており、いずれの展示会にも業界関係企業が出展しています。

ITpro EXPO 2014 <http://itpro.nikkeibp.co.jp/expo/2014/>  
 危機管理産業展2014 <http://www.kikikanri.biz/>

---

次号もよろしくお願ひ致します。

CNAレポート・ジャパン 橋本啓介